

堂脇 さとみさん (左) & 中島 まなみさん (右)



Q : お二人は豊富町出身ですか？

A (中島) : 愛知県出身で、湯治のために豊富町に来て3年経ちました。今は、赤ちゃんから高齢者まで、健康づくりの輪を広げたいという想いを持って、ヨガのインストラクターをしています。

A (堂脇) : 旭川で生まれ育って、アトピー性皮膚炎の湯治のために、8年前に息子と一緒に引っ越してきました。今は、「餅caféわが家」という小さなカフェを運営しています。「もりあげ隊」のメンバーは、わたし以外はみんな道外出身者です。

Q : 「豊富温泉もりあげ隊」結成のきっかけは？

A (中島) : 全国から湯治で訪れる方にとって、カフェのような気分転換の場所が豊富温泉にはなかったんです。

「ないなら、自分たちでつくろうよ」ってなって。湯治で来ていた5人が集まって「豊富温泉もりあげ隊」を結成して、期間限定のカフェをやってみることにしました。その中でできたスローガンが「豊富温泉にあったらいいなを形にしよう」。1回で解散するのは勿体ないから、カフェ終了後も解散せずに「あったらいいな」を形にする団体として、残ることにしたんです。

Q : 地元の方と湯治で訪れた方が一緒にする活動はありますか？

A (堂脇) : 「つなぐ市」というハンドメイドマーケットのイベントを1年に1、2回行っています。「もりあげ隊」と湯治で来ている人、地元の人、近郊の人、たくさんの方が来てくれて、作った作品や食品を手から手へ渡しています。是非、根付かせていきたいと思っている活動のひとつです。

A (中島) : 豊富温泉に来る人って、皮膚疾患という共通点はあるけど、本当に多彩なんです。様々なスキルを持った人が、ここでそのスキルを発揮してくれたらと思って、町の人と湯治の方を繋ぐ活動をしています。1個でも2個でも仕事を作ることで、仕事を兼ねて豊富町に来てくれる人が増えるんじゃないかなって。「もりあげ隊」が町の人への勉強したいと思うことを聞いて、それを教えてくれる湯治客と繋ぐ。それが隣町からのセミナー依頼に繋がったこともありました。

インタビューを終えて (生涯学習課 : 中西 めぐみ)

もともとある色に上塗りをして新しい色を作ろうとするのではなく、もともとある色に、ゆっくりと滲んで新しい色を作る。

『「地元の人」 + 「移住してきた人」 = 新しい色』

豊富町を大切に思う「地元の人」と、同じく豊富町を大切に思う「豊富温泉もりあげ隊」の皆さんや湯治で訪れる方が混ざり合うことで、豊富町の魅力が何倍にもなっているということを感じました。

詳しくはこちら

